

令和 6 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価		
作成日		令和7年3月21日
法人名		園 名
和順会		むさしこども園
まとめ		全体平均 4.25
第2章第2節 乳児期の園児の保育	安心安全な環境づくりを基盤に、子ども一人ひとりとの信頼関係構築に注力した。常に笑顔と温かい声掛けを心掛け、感情を受け止めながら個別対応した。 0歳児は「共感」と「待つ姿勢」が重要であると実感。子どもの些細な表情や仕草を見逃さず、代弁する言葉がけを意識。家庭の生活リズムを尊重しつつ園生活への適応をサポート。窒息や転倒予防など安全対策を徹底するとともに、スキンシップを交えた触れ合いで情緒の安定を図りました。	
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	2歳児は、排泄・食事・身支度には個人差に応じた反復指導が不可欠で、保育士間の役割分担と情報共有が重要。言葉の発達期には端的で丁寧な声掛けを心掛け、子どもの「やりたい気持ち」を尊重し、見守りながらの適切な言葉がけを実践。初めから正解を教えるのではなく「試行錯誤できる環境整備」に注力。情緒安定のため、安心できる人的・物的環境を整え、休み明けや体調不良時でも安定した生活を実現した。運動会や制作活動では、保育者との共体験を通じて楽しめるよう導き、その場に応じた柔軟な対応を心掛けた。保育士間で子ども理解を深め「受容的関わり」を実践。	
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	子どもの主体性を育むため、ミーティング活動や行事企画の「考える機会」を重視。発表会では多様な素材を用意し自由な表現で、創造力が育まれ、表現の楽しさを体感する姿が見られた。体力面では散歩や寒稽古を行った。「タイムタイマー」の導入は時間の可視化で気持ちの切り替えを促し、効果的だった。課題として、午睡のあり方。午後の保育設計に改善の余地がある。個別支援が必要な子には丁寧に対応し、環境面では「気持ちの切り替えコーナー」を設け、情緒安定に配慮した。ミーティング活動では、「担任主体」との指摘を受け、子ども主導の話し合いへ転換。今後は発達差が顕著な集団での個別支援、保育の本質を見失わないミーティング活動、時代の変化に応じた柔軟な環境整備が挙げられる。	
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	個々の園児の発達段階や特性を踏まえた個別対応が不可欠であることを実感しました。情緒の安定を図り「やりたい気持ち」を尊重する保育を心掛ける。特に未満児に対しては、丁寧な観察を通じて気持ちの代弁や安心できる環境構成に努め、家庭との信頼関係構築を基盤に発達支援を行った。ラーニングストーリーや日常のドキュメンテーションを通じ、園の方針と家庭の子育て観をすり合わせる努力を継続し、保育者のコミュニケーションスキルの重要性を再認識しました。	
第3章 健康及び安全	日常的な手洗い・うがいの徹底と体調不良時の迅速な職員連携を図る。遊具点検・ヒヤリハット事例の全園共有を継続し、1年を通じて避難訓練を実施した。食育では菜園活動・味噌作り・調理体験を軸に、発達段階に応じた食体験や保護者向け情報発信に注力。アレルギー対応では提供フローの厳格化と全職員研修を実施し、人的ミスの防止に成果。衛生管理では酸性水を用いた殺菌を徹底した。 課題として、誤食事故防止体制の再構築。全職員が「子どもの命を最優先する保育」を組織的に実践する。	
第4章 子育ての支援	保護者との信頼関係構築を重視。子育て相談では経験不足を自覚しつつも、先輩保育士の助言を仰ぎながら、保護者が「子育てが楽しい」と感じられる声掛けを意識。最終的な決定権は常に保護者にあることを念頭に、子どもの気持ちに寄り添う支援を心掛ける。地域連携として市役所と情報共有しつつ、支援センター利用者の拡大に取り組む必要性を認識。保育参観や講演会、外部イベントとの協働で保護者の負担軽減に努め、子育ての孤立化防止を目指す。	
第5章 職員の資質向上	毎日の保育ミーティングや園内研修（年3回）を行い、職員の専門性向上を図る。研修で得た知識を日常の保育振り返りに活用し、クラス単位や園全体で課題を抽出・改善するサイクルを構築している。ソニー財団の教育助成プログラム入選や食育コンテストでのレシピ雑誌掲載など、具体的な成果が表れている。他園視察や教育アドバイザー活動を通じ、自園の保育を相対化する視点も養われた。今後も学びの場を大切にしたい。	
総合	R6年度テーマ「基礎・基本を大切に！」とし、①安心・安全な環境構成をする。②遊び中心の保育を行い、子ども理解を深める。③保護者・地域支援に務めるを挙げて、取り組みを進めました。本年もソニー教育財団・食育コンテストに保育論文を提出し、職員が自ら保育の質の向上に励み、毎日の保育ミーティングを通し、ラーニングストーリー・ドキュメンテーションを作成し、子ども理解に務めた。また、1年を通じて「避難訓練」を行い、安全対策に力を入れた。 地域子育て支援は、児童クラブ・日曜さんさん・なっちゃんの家活動を開催することで、0才から18才までの子ども・子育てで家庭支援を行うことができている。課題は、人材確保。永続できるように様々な環境改善を講じ、工夫したい。	
データ表		
内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.53
「3歳未満児保育」	32	4.84
「3歳以上児保育」	53	4.02
「教育保育の配慮事項」	16	4.44
「健康・安全」	29	4.14
「子育ての支援」	18	3.89
「職員の資質向上」	9	3.78
計	172	4.25
データグラフ		